

学生の皆さんへアドバイス

ADVICE

キャリア選択のアドバイス

実際に働いている人の声を聞くのが一番だと思うので、積極的に見学に行って雰囲気を感じ、自分が働く姿を想像してみてください。目指す薬剤師像が決まっている人は、それを実現できる職場かを確認するとよいと思います。

社会人(薬剤師)への心構え

薬剤師の資格取得はゴールではなく、スタートです。患者さんの命に関わることもあり、知らなかったではすまされないため、常に自己研鑽をする必要があります。学生のうちから現場をイメージして学習するとよいと思います。

こういう人と働きたい!

何事にも一生懸命取り組む姿勢の人、思いやりのある人と働きたいです。特に当院の薬剤師は各々が得意分野を持っていて相談し合うことが多いので、私も誰からも相談されやすい人でありたいと思っています。

FUTURE VISION

TO MY FUTURE

MYタイムカプセル 5・10年後の私

まずはジェネラリストを目指し、幅広い知識の習得に励んでいるところです。わからないことは素直に認めて、調べたり先輩に教えていただいたりしながら、薬剤師としても人としても成長していきたいと思っています。将来的には専門認定薬剤師も視野に入れ、より専門性を磨くことにも力を入れたいと考えています。

OFF TIME

休日は自宅でマンガを読んだり、ドラマを視聴したりしてゆっくり過ごすことが多いですが、スイーツ好きなので、友人と一緒に少し遠出してカフェ巡りを楽しむことも。秋にはいろいろなモンブランの食べ比べを楽しみました!



COMPANY'S EYE

これからの薬剤師に期待すること

薬剤師だけではできないことが限られており、よりよい薬物療法のためには多職種連携が必要不可欠です。各人が自身のすべき役割を認識し、責任と思いやりを持って行動することがチーム医療の質を高め、ひいては患者さんの利益に直結します。当院では、入職してまず始めに多職種合同での研修を実施しており、互いの業務を実際に体験することで、理解を深めるようにしています。

薬剤師の臨床活動と教育に注力

中京病院の薬剤部は、「医療チームへの積極的な参加」「安全で安心な医療の推進」「地域医療への貢献」「自己研鑽」の4つを掲げ、地域の皆様に安心して医療を受けていただけるよう日々の業務に励んでいます。また、当薬剤部にはがん専門薬剤師、感染制御認定薬剤師、糖尿病療養指導士、心不全療養指導士等をはじめとして数多くの専門・認定薬剤師が活動しています。医療薬学会認定薬剤師制度研修施設、がん専門薬剤師研修施設、薬物療法専門薬剤師研修認定施設として、薬剤師の臨床活動と教育に力を注いでいます。

COMPANY DATA

病院
独立行政法人地域医療機能推進機構
中京病院

〒457-8510 愛知県名古屋市中区三條1-1-10
https://chukyo.jcho.go.jp/
従業員数 1,191名(うち薬剤師35名)
病床数 661床
診療科目
総合診療科、血液・腫瘍内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、脳神経内科、精神診療科、小児科、小児循環器科、外科(消化器・乳腺・血管)、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科、放射線科、救急科、麻酔科、リハビリテーション科、緩和支援治療科、心療科、病理診断科



しっかりと幅広い知識の土台をつくった上で高い専門性の獲得にも挑んでいきたい。

薬剤部 丸田 知佳さん 名城大学薬学部 2022年卒業



1病棟1薬剤師担当制で患者さんや他職種と密に関われる
病院での実務実習で、多職種と連携しながら専門性を発揮して活躍する薬剤師の姿を見て、病院で働きたいと思うようになりました。なかでも中京病院は、1病棟1薬剤師担当制で、患者さんや他職種スタッフと密に関われることや、第3次救急医療機関で幅広い症例を見られることに魅力を感じ、入職を決めました。
入職後はまず多職種合同での研修からスタート。体験を通して他職種スタッフが普段している仕事や、薬剤師とは違う視点や考え方についても知ることができ、その後の業務でもとても役立ちました。
合同研修後は、調剤室・注射室で調剤の基本を徹底して学び、院内製剤や抗がん剤の調製なども行いました。適用外の使い方もあり、疑義照会すべきかを先輩薬剤師に確認しながら、教科書では学べない臨床で使える、生きた知識を身に付けていきました。



情報共有の大切さを実感より積極的に行動するようになり
2年目からは血液内科・眼科の病棟を担当するようになりました。当院は、1病棟1薬剤師担当制で、患者さんとの関わりも密なので、「担当の薬剤師」として顔と名前を認識してもらえらるので責任もやりがいも大きいです。「聞きたいことがあって」と患者さんがわざわざ私を探してナースステーションまで来てくれることもあり、医療者としてしっかりと信頼に応えたいと、日々の勉強にも熱が入ります。
もちろん他職種との信頼関係も、チーム医療の実践には欠かせません。病棟に上がったばかりの頃に、看護師に薬の保管場所を伝え忘れたことがあり、情報共有の大切さを痛感。普段と違うことがあれば、どんな些細なことでも関係スタッフに伝えたり、積極的に相談したり、話しかけやすい雰囲気をつくることを心掛けています。抗がん剤を使うことも多い病棟なのですが、最近では副作用予防に向けた提案にも積極的に取り組み、採用されることも増えてきました。
まずはジェネラリストを目指して幅広く学びたいと、自分が担当している病棟の診療科以外の勉強会にも積極的に参加するようにしています。将来的には専門認定薬剤師など資格取得にもチャレンジし、幅広い知識の土台に専門性を併せ持つ薬剤師へと成長していきたいと思